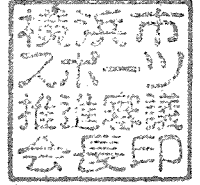


令和4年3月22日

横浜市長 山中 竹春 様

第25期横浜市スポーツ推進審議会

会長 山口 宏



横浜文化体育館再整備事業 メインアリーナの名称について  
(答申)

令和4年2月14日市ス第1589号で諮問のありました横浜文化体育館再整備事業 メインアリーナの名称について、別紙のとおり答申します。

## 答申

横浜市では、平成29年から横浜文化体育館再整備事業を進めており、令和2年にはサブアリーナ施設である横浜武道館が開館し、令和6年のメインアリーナ施設の開館に向け、現在工事が進められている。この度、メインアリーナ施設の名称決定にあたり、市ではその名称について意見公募を行った。結果として、約1か月の投票期間で1,416票が集まり、市民のこの施設に対する関心の強さ、期待の高さが示された。また、選択した理由についても様々な視点での意見が寄せられたことから、名称の決定においては、票数のみならず、これらの寄せられた意見について尊重されるべきであると考えます。

今回の意見公募の結果からは、いくつかの傾向が見てとれる。

まず、市民の「横浜」への強い思いを感じることができた点である。大多数の名称には「横浜」が含まれており、地域、地元への愛着が表れていた。

横浜市が、スポーツイベントの誘致・開催等、スポーツと多様に関わる機会や場の提供を推進するにあたって地域をアピールしていくことは、審議会としても必要と考えることから、名称に「横浜」の地名を含めることを提案する。

次に、今回の結果については意見が大きく二分された、という点である。

一つは、「横浜Uアリーナ」についてである。「かっこいい、おしゃれ」などの理由により494票を獲得した。これは、市民が新しさや洗練された名称を求めていると感じるものであった。

もう一つは、旧「横浜文化体育館」に対する、市民の思い入れの強さである。

「横浜文化体育館」の254票、「よこはまぶんたい」の121票、またその他においても、「文体」「BUNTAI」「ぶんたい」を含む名称が70票あった。合計445票が言及している結果となった。

これらの傾向を踏まえて名称を決定すべきであるが、決定にあたっては考慮すべき事項もあると考えます。

「横浜Uアリーナ」が494票を獲得し、またその他においても、「アリーナ」が含まれる提案が311票あった一方で、横浜市内に現存する他のアリーナ施設との混同に対する懸念も寄せられた。

国際大会等の開催時、現に横浜国際総合競技場（日産スタジアム）と横浜スタジアムを間違えて会場に来た、という事例も一定程度寄せられているとのことから、市の施設に新たに名称を付けるのであれば、市内既存施設の横浜アリーナ、ぴあアリーナMMや今後開業予定のKアリーナ横浜等との混同を避けた名称と

すべきである。

また、旧「横浜文化体育館」は昭和39年以降、スポーツ・文化のイベントのみならず、成人式等でも利用される等、市民の思い出の場にもなっていた。今回市民から、歴史の継承を求める声が多く寄せられた。

審議会としても、「文体」「BUNTAI」「ぶんたい」に対して寄せられた市民の思いについては考慮すべきと考える。その一方で、「横浜文化体育館」以外の名称が、投票全体の8割を占めていたことを踏まえると、市民は同じ名称を継続することを望んでおらず、また「新しさ」、つまり変化を求めているとも考える。

その上で、漢字表記の「横浜文体」では、「横浜文化体育館」と比して「新しさ」が少ないこと、ひらがな表記の「よこはまぶんたい」は、票数が少数であったことを考慮すべきである。

これらより、審議会からは、横浜文化体育館再整備事業におけるメインアリーナの名称については、「横浜」「BUNTAI」が、不可欠なキーワードと考え、「横浜BUNTAI」を名称案として答申したい。

なお、最終的には市にて、ご判断いただきたい。

これまで行ったことのない、市民利用施設名称の意見公募を今回行った意義は大きく、審議会としても評価している。今回意見を寄せてくれた多くの市民の意見が反映され、末永く市民に愛される施設として、今後のさらなるスポーツ振興に寄与してくれることを期待したい。